

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

意志表現をめぐる日中対照研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Son, Jyukyo メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1846

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



論文内容の要旨

孫 樹喬

話し手の意志を表す表現は、どんな言語においても最も基本的なものとされている。日常生活の中でわれわれは、何か決心や決定を下したり、予定や未来の行為を伝えたり、またある行為についての意欲や態度を表したりする時、意志を表す表現を使うのである。本論文は、このような話し言葉に現れる話し手の意志を表す表現を扱うものである。

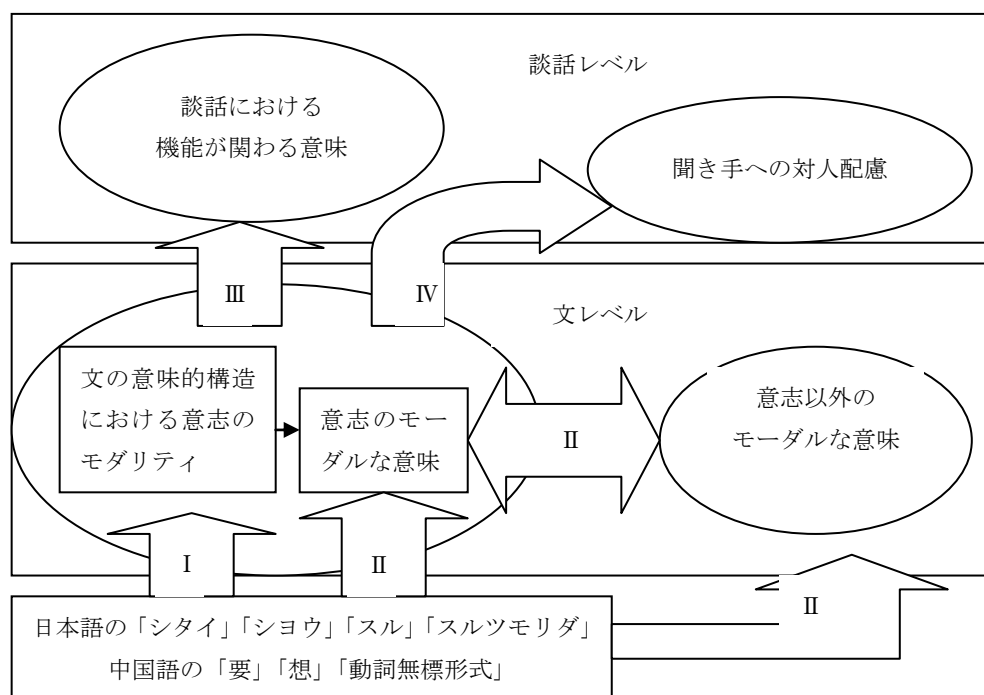
近頃、モダリティ形式をめぐる日中対照研究が多く見られる中、意志のモダリティをめぐる対照研究は、まだ個別の形式に留まるものが多い。また、有標形式が多く取り上げられているが、意志を表す無標形式は無視されることも多い。このような事実を受けて、本研究は、意志のモダリティを表す形式についての体系的な日中対照研究を目指す。また、日中両言語の意志表現の特徴を更に明らかにするために、従来日本語の意志のモダリティに対する聞き手要素も一括に扱うという考え方を取らず、命題めあてのモーダルな意味を文レベル、対人関係機能の意味を談話レベルの二つに分けて考察することにする。

本研究の目標は、意志表現をめぐる日本語と中国語との対照研究を通じて、両者のそれぞれの形式・意味・機能における特徴を明かにし、それに基づき、意志表現の全体像を見据えて両言語の共通点と相違点を明らかにすることである。また、本論文の議論の骨格となるものは、「意志」という意味のカテゴリと「日中対照」の研究方法の二つである。更に、「話し手の意志」を表す表現と「日中対照」の研究方法の二点に基づき、次の七つの表現、つまり日本語の「シタイ」「ショウ」「スル」「スルツモリダ」と中国語の「要」「想」「動詞無標形」を研究対象とした。

本論文は、意志のモーダルな意味を表す日本語の「シタイ」「ショウ」「スル」「スルツモリダ」と中国語の「要」「想」「動詞無標形式」について、文レベルと談話レベルにおいて、両者を対照しながら考察を行った。文レベルでの考察は、二つの内容が挙げられる。一つは、上記の表現形式と意志のモダリティとの関係について文の意味的構成構造についての考察である。もう一つは、上記の表現形式による具体的な意志のモーダルな意味の特徴をめぐる考察である。談話レベルでは、上記の表現形式を用いる意志のモダリティを表す文を具体的な談話場面に置きながら、発話としての機能と聞き手への対人配慮の二つの側面から考察を行った。

論文の主要部となる第3章～第6章の内容及びお互いの関係について、次の図1で示すことができる。

図1 本論文の研究対象とその関係



ローマ数字のⅠが書かれた矢印で表される関係は、意志を表す表現形式と文の意味的構造における意志のモダリティとの関係を示し、第3章が扱う内容である。この章では、意志のモダリティを表す文の意味的構造を提示した上で、意志を表す表現形式はどんな振る舞いを見せるのかについて、一人称主体の表示・不表示、話し手の対象動作に対する制御性、各表現形式の現実性のあり方の三つの側面から考察を行った。両言語の意志を表す形式は一人称主体の表示・不表示の問題において、明らかな違いを見せた。中国語の「要」「想」「動詞無標形式」が用いられる意志のモダリティを表す文は常に一人称主体を表示するのに対し、日本語の「シタイ」「ショウ」「スル」「スルツモリダ」は、一人称主体の不表示が多く見られる。また、話し手の対象動作に対する制御性の有無から言えば、日本語は表現によって、はっきりと分化しているのに対し、中国語、特に有標形式は制限ないのである。更に、ほかの表現と較べて、中国語の「動詞無標形」自身に非現実性を備えないという点はかなり目立つものである。

ローマ数字のⅡが書かれた三つの矢印で表される関係は、第4章が扱う内容である。この章は、意志を表す表現形式を軸にして、これらの表現形式に見られる意志のモーダルな意味と意志以外のモーダルな意味を提示し、お互いの関係を考察する。この章では、意志のモーダルな意味の細分化の意味範疇に情意的性質と認識的性質との連続性が見られるだけでなく、意志のモーダルな意味と意志以外のモーダルな意味の間にも情意的性質と認識的性質との連続性が確認されたのである。第4章で確認された日本語と中国語の意志を表す表現の最も大きな違いは、有標形式と情意的・認識的性質との関係に見られる。日本語の「シタイ」「ショウ」「スルツモリダ」は、情意的性質か認識的性質かのどちらの一方を持つのに対し、中国語の「要」「想」は情意的性質と認識的性質の両方を持つのである。更に、三人称主体の文に日本語の意志表現は使われにくい傾向があるのに対し、中国語の意志表現は制限なく使えるという両言語の相違もかなり目立つ。

ローマ数字のⅢが書かれた矢印で表される関係は、意志のモダリティを表す文が談話レベルにおける機能との関係を指し、第5章が扱う内容である。意志のモーダルな意味に見

られる情意的・認識的対立は、上記の各表現形式が用いられる発話の談話における機能にも反映されている（次の図2を参照されたい）。この章で確認された日中両言語の意志のモーダルな意味を表す形式の最も大きな違いは、聞き手存在に対する姿勢である。談話における機能から見ると、日本語の方は聞き手の存在を重視しているが、中国語の方は全体的に言えば聞き手が存在するか否かについてあまり意識していない。

図2 意志のモーダルな意味を表す形式の談話における機能に見られる情意的か認識的かの対立

情意的なもの	——	（聞き手めあてではない場合）感情そのままの表出 （聞き手めあての場合）聞き手を対象動作に巻き込む
認識的なもの	——	（聞き手めあての場合が殆どだが）話し手の意志についての説明

ローマ数字Ⅳが書かれた矢印で表される関係は、談話における意志のモダリティを表す発話と聞き手への配慮との関係を意味している。これは、第6章が扱う内容である。この章は日中対訳の方法を使って、「シタイト思ウ」「シヨウト思ウ」と「要」「想」との対照を行ったうえで、日中両言語の意志を表す表現形式に見られる対人配慮の姿勢の違いを明確にした。その中で、日本語の意志表現の選択が人間関係に大きく影響されているのに対し、コミュニケーションにおける中国語の意志表現の選択は主に事柄の負担度に大きく影響されているということがわかった。このような現象は、意志表現の有標形式だけではなく、先行研究を見ると、ほかの表現、例えば、意志表現の無標形式や文末表現にも確認されている。

以上、本論文の主な内容をまとめ、更に各章の論述によって明らかになった日中両言語の意志表現の間に見られる著しい相違を一部取り上げた。日中両言語の意志表現についての考察を通じて、両言語間の最も顕著な違いは三つ挙げることができる。一つ目は主観性の程度の違いで、二つ目は文法化の程度の違いで、三つ目は聞き手に対する姿勢の違いである。主観性の程度の違いは、二つの面に反映されている。一つは、人称主体の表示と不表示の傾向で、もう一つは、情意的・認識的性質の特徴である。文法化の程度の違いは主に両言語の意志表現に見られるモーダルな意味に反映している。聞き手に対する姿勢の違いについて、聞き手存在の制限の有無や対人配慮の工夫の有無に反映されている。